

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム 第59回会合 発言録案

2025年2月10日

【加藤】 それでは、そろそろ第59回のIGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム会合を開始したいと思います。皆さん、よろしくお願いいたします。

今日は予告どおり、今から1時間でいろいろな情報交換、これまでの活発化チーム会議の会議をやらせていただいて、6時から第1回目の勉強会ということで、今日はデジタル公共財に関して宮本様からお話しいただく予定になっております。ぜひ引き続き御聴講をお願いしたいと思います。

それでは今日の最初の部分、アジェンダに沿ってやらせていただきたいと思います。日本政府からの御報告ということで、今、飯田様のお名前は拝見できないのですけれども、恩賀様、何か最初にお言葉をいただくことはありますでしょうか。

【宮本】 お世話になっております。総務省の宮本です。お世話になっております。

IGF関係では、すみません。私から、データ課から特に共有することはないのですけれども、ICANNの関係で引き続き準備を進めておりまして、ちょうどあと1か月ぐらいなのですけれども、総務省でもやるAbuse関係のセッションを含めて準備を進めているところでございます。

以上です。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。では、もし飯田様が後で御参加になれば伺うとして、今日はちょっとスケジュールが1時間ということで、進めさせていただきたいと思います。

それでは、この順に沿って、IGFのMAGからの報告ということですが、御承知のとおり、今年からMAGのメンバーが総入替えになりまして、日本から私と飯田様がMAGに入ったということで、第1回なのですが、早速、いろんな会議がございました。

まず、1月30日にリモート会議を、これは最初の初顔合わせですね、そういう会議がありまして、それは自己紹介とか、今後、今年こういうスケジュールでやるなどというものが多かったのですけれども、実は早速、第1回目のオープンコンサルテーションとMAGのミーティングを、リモートで、2月5日から7日まで3日間やりました。これはかなり中身の濃い、いつものMAGの会議でございまして、2月5日、初日はオープンコンサルテーション、2日目・3日目、2月6日・7日は一応、MAG会議です。

実は前回の会議でも河内さんからコメントがありましたけれども、MAGの会議といっても、登録さえすれば大抵のセッションを皆さんに聞いていただけるということが分かりました。今回は、3日間、全部、河内さんに出ていただいて、それで、山崎さんにも一部、かなり聞いていただいたという会議でございました。まず、実は私が海外出張とちょうど重なっていて、もうそれが変更できなかったものですから、飛行機で移動中など、どうしても出られない部分があって、今回、この3日間の会議については河内さんにかなりまとめてもらったので、この後、河内さんから、そのまとめに沿ってお話をさせていただきます。私もノートを取った部分は補足いたします。

それで、MAGの会議ですけれども、今年のMAGはかなり新しいメンバーになって、皆さん非常に積極的で、40人ほど、MAGの正式で、政府関係の20人近い、毎年これまでIGFを開催した国の政府の代表の方以外に、本来のMAGが40人ほどいらっしゃいますが、最初の1月30日の顔合わせの日も、35人位は出席されていました。ということで、その後の3日間の会議も非常に積極的な会議でございました。3日間の構成ですけれども、最初の日のオープンコンサルテーションはかなりたくさんの方が入られて、多いときは100人以上、入っていました。120人ぐらいまでいった日が、一番多いときは123人というのを私は記録しています。その後、2日目、3日目も、80人程度は出ていらしたので、これはどういうことかという、MAGではない方も結構出ていらしたという感じ です。

それと、今回、MAGに入っているいろいろ分かったことは、MAGのリストの中に、MAGパブリックというのと、MAGのプライベートというのがあって、プライベートのほうは、一応、MAGのメンバーだけのメールのやり取りがあります。それで、MAGのパブリックのほうは、IGFのMAGに登録さえしておけば、いろいろMAGに関する情報が送られてきます。今お聞きの方でも、MAGでどういうことを議論されているのかというのは、もし知っていただくのであれば、MAGのパブリックのほうのサイトに登録さえいただければ情報が来ます。今回のような会議がこういうアジェンダであるとか、そういうことも含めて会議が聞けますので、ぜひ御検討いただければと思います。

それ以外に今回分かったのが、MAGの人たちの中で、これは全員強制でも何でもないので、ボランティアで結構、中心的にいろいろ議論する人たちは、WhatsApp(チャットサービス)でふだんからやり取りをしているというので、これのほうも結構、長い文章を書くわけではないですが、こういうポイントが大事だよみたいなことを含めてやり取りしていますということで、情報としては、今のようものがございます。それで、会議自身も、さっき申し上げたように、当然、初日のオープンコンサルテーションの日は誰でも発言できる。2日目、3日目のMAGの日は、決議があるということになるとMAGメンバー・オンリーで投票できますけれども、議長が指名してしゃべっていいよということであれば、手を挙げて発言を求めることもできるという、MAGといってもかなりオー

プンなプロセスになっているなど感じました。それが今のMAGの状況でございます。

それで、さっき申し上げたように、2月、先週、リモート会議の第1回があって、次には今年の4月14から16日、これは今度、ジュネーブでフェース・ツー・フェースの2回目のオープンコンサルテーションとMAGのミーティングがあるという予定です。その後は、もう6月23から27日の、ノルウェーのリレストロムの今年のIGF 2025というのがスケジュールです。その間、以前も御覧いただいたと思いますが、3月頃にはセッションの審査とか、そういう手続がずっと、かなりのスピード感で入っております、全体の日程はもう決まっているということでございます。

ということで、3日について河内さんに資料をまとめてもらったのを、山崎さん、よろしければこちらで……。

【河内】 資料共有させていただいても大丈夫ですか。

【加藤】 はい。

【河内】 させていただきます。

では、最初に、まず今、加藤さんがざっとおっしゃった、いつもの蛇のくねくねの…。

【加藤】 スケジュールですね。

【河内】 今年のタイムラインですね。これをちょっと、確認のために共有させていただいてますけれども、今がここですね。「1st IGF Open Consultation and MAG Meeting」で、これが先週終わったところです。これは後で、MAGの会議でも何度か出てくると思うのですが、来週の12日から、もうCall for sessionで、ワークショップとか、いろんなセッションの募集がもう始まりです。いつもはこれが始まるのは3月か4月だったと思いますので、かなり早まっています。それで、IGFの登録がもう2月20日には始まって、Intersessional Workは、もう先週の会議で、ポリシーネットワークもBPFも、それからダイナミック・コアリションも、みんなこれまでのものは全て継続するということが決まりましたので、これも2025年度の活動を始めることになると思います。

それから、これですね。ワークショップとか、ほかのセッションの募集を終えて、だから締切りは3月16日ということになっていますね。Call for sessionの締切りが3月16日で、もう3月17日から、事務局のスクリーニングの後のMAGのメンバーがそれを評価して、最終的には、その次ですね。4月14から16日に、2回目の対面のMAGの会議、オープンコンサルテーションのMAGミーティングがジュネーブで行われることになっていますので、そこで最終的に、MAGが決定するワークショップについては、そこで決まることになります。それ以外のセッションの結果も4月中には多分出るの

ではないかと思います。あとは、Villageの募集とか決定とか、それからメインセッションも4月中にはFinalizationですね、全部決めて、Bilateral Meetingとか、その辺があって、6月23から27日に、リレストロム、オスロの郊外のまちでIGFが行われると。Intersessional Workは、その後も継続して12月まで行っていってもらおうということを言っていました。

【加藤】 あと、2月5日から7日、先週あった会議の後、今週、14日に、ちょっとまだ時間の連絡を受けていないのですが、リーダーシップパネルとMAGのミーティングをやるということになっていまして、情報交換をする予定です。

それでは、どうでしょうか。河内さん、ちょっと今、このスケジュールを出しておいたらどうかかなと思って、今、僕がお見せしているんですけど、これに沿って、ここでどんなことが決まったというのを言っていくのがいいのかなと思っていますけど、どうですか。

【河内】 すみません。それで構いません。

【加藤】 では初日の、まず2025年。これは、最初のところに、今あったように、いろんなスケジュールの確認などがあって、それで、その後の、GDCとかWSIS+20との関係の話が結構、重要だと思ったのですが、河内さん、これをちょっとかいつまんで、この3つの方々とのお話を御報告いただけますか。

【河内】 まず、これはちょっと、並んでいる順番ではなかったのですけれども。

【加藤】 そうですね。Isabelから。

【河内】 最初に話した人は、2番目のUN DESAの方が話をしたと思うのですけれども、この方は、国連経済社会局、UN DESAの方、Denis Susarさんという方で、UN DESAはWSIS+20のレビューの7月に行うイベントですか、その事務局としての役割を継続しているということで、情報提供のために専用のウェブサイトも開設したということです。

それで、WSIS+20のレビューの進捗ですけれども、それについては、2030年に向けたアジェンダの見直しに貢献することがWSIS+20に求められているということで、国連事務総長がケニアとリトアニアの常駐代表を政府間協議の共同進行役、コファシリテーターに任命したということで、間もなく協議が開始されるということでした。

それから、今後の…。

【加藤】 ごめんなさい。これはIsabelですよ。

【河内】 違います。これは、しゃべった順番は、この方が最初で。

【加藤】 Denisは2人目だと思うよ。

【河内】 いや、2人目なんですけど、しゃべったのは1人目だった、最初だったんですけど。

【加藤】 すみません。どうぞ。

【河内】 それで、Isabel、1人目の方は……。

【加藤】 それでは、ちょっと今のを補足しますと、Denisは、GDCの中でIGFについて触れているということを特に強調して、IGFからのいろんなインプットを彼は期待していると。これはちょっとリップサービスの気もしましたけれども、それをいろいろとインプットが欲しいと。特にというので、まず最初にDenisが言ったのが、今、NRIからいろんなコメントをもらいたいと思っていると。それで、GDCのいろんな活動について、各国のIGFの活動のイニシアチブがどんなものがあるかというのを聞いて、ブループリントをつくることを考えていると。それで、それについては特にNRIからいろいろコメントが欲しいというようなことを言われました。それで、後でいろんなやり取りがMAGのメンバーからあったときに、NRIも当然重要だけれども、ダイナミック・コアリションとか、ほかからのインプットもちゃんとできるようにしてくれというような注文がありました。ただ、国連のほうも、IGFの価値としてNRIが非常に重要な活動をしているということは認めているという口ぶりでありました。

今、ブループリントと言いましたけど、さらに彼は、GDCのインプリメンテーションマッピングというのもつくると。そういう紙を、最終的にどういう言い方になるかは分かりませんが、GDCをどういうふうにインプリメントするかというのをきっちりとまとめていて、その中に、NRIからのインプットを聞くと。なぜなら、GDCがIGFを非常に重要なものと考えていて、NRIがその中で重要な役割を果たしているからだという説明でありました。

すみません。それで、Isabelですね。

【河内】 いや、今のは多分、Isabelが言ったことではないかと。

【加藤】 Denisですよ。

【河内】 Denisは……。ブループリントとかNRIのこととかインプリメンテーション・マップの話はIsabelがしたと思うんですけど。

【加藤】 そうでしたっけ。

【河内】 すみません。ちょっと順番がぐちゃぐちゃだったので、混乱してしまっているのかもしれないです。

【加藤】 Denis Susarが最初ですよ。それで、その後……。

【河内】 そうです。

【加藤】 ごめんなさい。そうだ。途中から「Isabel」とノートに書いてある。失礼しました。今の部分はIsabelが、その後、しゃべったことでした。すみません。

【河内】 Isabelは、新しくできたOffice on Digital and Emerging Technologies……。

【加藤】 ODETですね。

【河内】 ODETですね。ここの方で、9月にGDCと、あとPact for the Futureが出た後、すぐ設置されたと言っていました。もう、秋からずっと、この辺の議論を中ではしてきていると言っていました。先ほども加藤さんがおっしゃいましたが、ブループリント、具体的な青写真をつくることを考えていると。それで、NRIとの連携強化とか、その辺を、この方はかなり具体的な話というか、ほかの2人の方に比べて、実際にGDCをどういうふうにやっていくかということ、ここで考えているというのが伺えるような話をしていました。

【加藤】 今ちょっと混乱していて、名前を混乱していたんですけど、最初のDenisがもう一つ、データガバナンスについてのグループも今つくっているという言い方をしていました。今ちょうどそれをエスタブリッシュメントしているところだという話をしていました。だから、一応、国連では、いろんなGDCインプリメンテーションのための仕組みを、彼がいろいろとやっているということだと思います。

【河内】 それから、3番目のCSTDのサンジェイバン・ファリフ氏という方ですけれども、この方は、CSTDは、ECOSOC及び国連総会からWSISの成果のフォローアップを任されているということで、京都でのIGF 2023とか、UNCTADウィークでの協議、それからオンラインアンケートなどを通じて、ステークホルダーの皆さんとの意見交換を実施してきていると。オンラインアンケートは多分、去年もあって、今年も同じ内容でquestionnaireが出ていますけれども、そのことだと思います。

GDCとの連携としては、次回のCSTDの年次会合の1日を、このテーマ、GDCとWSISの関係についてのテーマに当てて議論をする予定だと言っていました。

それから、その次の方、ITUのGitanjali Sarさん、インド人の女性だと思うのですが、この方からITUの取組としてあったのは、2月11日に公開協議会を開催すると言っていました。リトアニアとケニアが共同進行役に任命されましたけれども、その方が進行役になって、2月11日に公開協議会を開催すると。それで、2025年以降のビジョンについての議論を行うということです。

WSIS+20のハイレベルイベントは、今年は、先ほどからも出ていますが、7月7日から11日にジュネーブにて開催予定で、参加登録は既に受け付け中なので、ぜひ参加してほしいと呼びかけていました。それから……。

【加藤】 このITUの方がリヤドでも、このハイレベルイベント、7月のWSIS+20のイベントのいろんな調整役をやっていて、リヤドでそういうオープンコンサルテーション的な会をやりましたけれども、この2月11日というのは、その続きをまたやりますということだと思います。

【河内】 それで、もう7月のイベントでの参加の呼びかけですね。WSISアワードみたいなものをいつもやっているようですが、その締切りも、もう来週、2月10日なので今日ですね。今日なので、ぜひ応募してほしいということを書いていました。

まとめとして、WSIS+20は、過去の成果を振り返るだけではなくて、2020年以降、今後のビジョンを形成する重要なフェーズに入っているのので、関連する国連機関とか各国とか民間とか市民社会、全てのステークホルダーが協力して、持続可能なデジタル発展を推進することが求められていることを強調していました。

そこは加藤さん、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい。

それでその後、午後ですね。

【河内】 その意見交換ですけれども、特に最初のODETですね、Isabelさんが、IGFとODETの間でコミュニケーションをよくするべきというようなことを言ったときに、MAGの1人のメンバーが、コミュニケーションはやっぱり、なかなか意見交換をする場もあまりないので、できたらリエゾンを置いたらどうだと。コミュニケーション役をやるリエゾンみたいなのを設置したらどうかという提案がありまして、それに対してIsabelさんは、ODET内部でそういうことをできるかどうか検討すると答えていました。

それから、ODETがNRIのネットワークを利用するというものは、とても前向きでいいので、ぜひGDCの実施のための青写真の策定に向けたプラットフォームとして、このIGFとNRIを活用するべきという意見もありました。

それからあとは、ぜひここで行われた議論を、Strategy WG、IGFを今後どうしていくべきかというワーキンググループがMAGの中にあるのですけれども、そのワーキンググループで、具体的な提案とか行動計画にしたいと思っているので、参加してほしいと呼びかけていました。そのぐらいですか。

午後ですけれども、午後はもうIGF 2025のテーマについてのディスカッションがありました。ここには書いていない……。

【加藤】 これは後半、2日目のところでまとめて言っていただいていた方がいいかもしれないですね。これは頭出しだったから。

【河内】 分かりました。では、ちょっとここは飛ばして後にします。

【加藤】 そうですね。時間が今日は限られているので、実はもう、すごく盛りだくさんに河内さんにまとめてもらったのですけれども、全部やっていると時間が間に合わないので、今のテーマ、一応、全体のメインテーマと4つのサブテーマ、少なくとも全体テーマは決まりました。4つのサブテーマもほぼ決まりだと思えます。それで、今回のオスロのセッションをどういう構成にするかもほぼ決まりました。その辺、2日目以降の報告をさせていただきます。

2日目が、まずワーキンググループの……。

【河内】 2日目ですけれども、まずワーキンググループについて、それぞれのワーキンググループでどんな活動をしているかと。それで、今後、2025年以降の活動プランについてそれぞれ説明がありました。それぞれのワーキンググループの進行役の方から説明がありました。

まずStrategyですけれども、これは先ほどからよく出てきますが、2024年にビジョンペーパー、Vision Documentだったかな、という、最終的にIGFはこういうことをやっていくべき、こうあるべきみたいなことをまとめたペーパーを、このワーキンググループで作成して、それはリーダーシップパネルという、Vint Cerfがチェアをしているグループにもコメントをもらった上で最終盤にして、リヤドでのIGF2024でも、それをテーマにメインセッションが行われたりしていました。実はこのグループは2020年に設立されたということで、もう5年目になるのですけれども、メーリングリストに登録することによって、このグループに入るというか参加する形になるのですが、現在の登録者は215名だということで、非常に多くの方が登録しているようです。実際に会議は2週間に1遍、大体やるのですけれども、会議に出てきているのは多分、二、三十人かなと思います。そんなに多くないです。

それで、今年はビジョンペーパーを、さらにアウトプットを明確に出せるような形にしていきたい

と。特に、NETmundial+10でサンパウロ・マルチステークホルダー・ガイドラインというのが出たときに、IGFがどういう役割であるべきかというところが結構議論になったのですけれども、それについて、もうちょっと具体的な議論をしていきたい、具体的にどういうことをするべきかということを経験していきたくて言っていました。それから、IGFがWSIS+20のレビューにどのように関与できるかというところを検討していきたいと。また、NRレベルでの議論も活性化させたいと言っていました。それから、IGFとGDCがどう関わるか、どういうふうに、IGFがGDCのインプリメンテーションのために何ができるかということに関して、フォローアップ・トラックを提案したいと。これは、IGF 2025、ノルウェーでのIGFで、そういうトラックをつくることを提案していきたくて言っていました。要するに、そのテーマでのセッションを幾つか企画したいということだと思います。

それがWorking Group on Strategyで、もう一つのワーキンググループは、Working Group on Workshop Processといって、ワークショップの提案を毎年募集しますがけれども、その評価基準とか、必要な例えばダイバーシティは、必ず何名ずつ男女別のジェンダーが入っていないといけないとか、それから地域的なダイバーシティが必要とか、そういう評価基準などを毎年改善していくために、毎年それを議論して決めるということをやっているワーキンググループで、今年もそれを、もう来週の水曜日に提案の募集が始まるので、それに向けて議論を、これは翌日にやったのですけれども、したいと言っていました。

もう一つのワーキンググループは、Youth Initiativeといって、若者を、IGFにどういうふうに参加してもらったらいいかという、できるだけ若者に参加してもらうために、例えばワークショップとか、いろんなセッションのプロポーザルをどういうふうに変えたら通るかとか、そういうことを教えたり、あと去年やったのはメンターシップ・プログラムといって、MAGの経験が長いというか、MAGの経験がある人たちが、若者の指南役というか、教育係みたいになって、リモートでディスカッションを何回か行った上で、最後はIGFの年次会合に参加してもらって、その感想を書いてもらうみたいなプログラムをやっていました。それで、今年もそのメンターシップ・プログラムをやりたいと言っていました。

それから、ポリシーネットワークです。ポリシーネットワークは、AIに関するものと、それから Meaningful Access、意味のあるアクセス。接続とか、いろいろな障害者のアクセスとか、そういうことを議論するポリシーネットワークです。

ベストプラクティス・フォーラムは、今までサイバーセキュリティのベストプラクティス・フォーラムがあったんですけど、名前と内容もちょっと変わるんですかね。Best Practice Forum on securing access to the internet and protecting core internet resources in context of conflictというのをやりたいという提案が出ていました。

それからもう一つ、実は提案が出ていまして、IGFとデジタル協力及びガバナンスに関するグループ、これはポリシーネットワークなのか、ワーキンググループなのか、ダイナミック・コアリションなのか、ベストプラクティス・フォーラムなのか、どれでもいいのではないかと、どれでもいいから何かやったらいいのではないかとという提案が出ていました。これについては、今年は時間とリソースが限られていることもあって、新たにポリシーネットワークを1つ増やすのはどうなのかという議論が翌日の会議でありました。結論をここで言ってしまうと、結局、それが本当に必要なのかどうか、ほかと重複するのではないかとか、活動の内容が重複するのではないかと、ワーキンググループのStrategyでも同じようなことやっているの、なので、これは本当に必要かどうかとか、どこかほかのポリシーネットワークなどと統合できないかなどということ、コンサルタントを雇って検討した上で考えるという結論になりました。

もう一つ、すみません。インターネット・フラグメンテーションのポリシーネットワーク、これまでもあったので継続でやることになっていますけれども、このインターネット・フラグメンテーションとAIとMeaningful Access、それからBPFは、全部このまま2025年も継続して行うという結論になっています。

【加藤】 時間があまりないので。

【河内】 そうですね。

【加藤】 結論として、今幾つかあるポリシーネットワークなどは、そのまま継続するけれども、さっき言ったコンサルタントを雇って、それらをまとめた統合的なペーパーを作ることを検討するという言い方をしていました。事務局からは、そういうふうにしたいという説明がありました。

それで、その後、午後、メインテーマとサブテーマですね。

【河内】 まずメインテーマですけども、ホスト国が最初、提案してきた、いつも毎年そうなんですけど、毎年最初にホスト国が提案を出して、それに対してMAGで議論して、最終的に決めるんですけども、ホスト国は「Building Digital Governance Together」というのを出してきて、それについていろいろ議論があつて、例えば去年の2024年のメインテーマも「Building」というのが入っているので、同じ単語が続くのはいまいちだから、「Shaping Digital Governance Together」などとしたらどうだなどという意見もありました。いろんな議論があつた後、MAGのメンバーで投票を行って、結局、ホスト国が最初に提案してきた「Building Digital Governance Together」というものに、約8割、79%の投票合意というか賛成で、それになることになりました。

それから、サブテーマですけども、最初、ホスト国は5つのサブテーマの提案を出してきていた

んです。その5つは、1つ目が(Building) Digital Trust and Resilience、2つ目が(Building) Sustainable and Responsible Innovation、3つ目が(Building) Universal Accessで、4つ目が(Building) Digital Rights。もう一つ、5つあったのに、どれか.....。

【加藤】 Digital Cooperationも入ったんですね。

【河内】 それは後から入ったんですね。

【加藤】 入ったんですね。それに変わったんです。

【河内】 それで、結局、5つは多いから4つのほうがいいのではないかということになって、最後にDigital Cooperationというのをどうしても入れるべきと。GDCとかWSIS+20の関係で、このテーマを入れるべきということになって、この4つになりました。ここに書いていなくてすみません。またどこかに、後で私が作った報告を送りますので、皆さん、関心があれば見ていただければと思います。

それから、結局、会議場のレイアウトとか、どこにどういう部屋があるみたいな紹介が、実はノルウェーの事務局の人から、画像というか図で示して説明があったんですけど、部屋の数がやっぱり少ないというのもあって、多分、セッションは少なくしかできないのではないかという話から、もうちょっとセッションを減らすという案が出まして、要するに、ではネットワーキングセッションは別に部屋の中でやらなくても、コーヒーのあるところで、外とか、そういうところでもできるのではないかと、それからLightning Talkは本当に必要なのかとか、いろいろ議論があったんですけど、結局、ネットワーキングセッションは、会場外でもできるけど、やっぱり中でもあったほうがいいのではないかという結論になり、Lightning Talkも、やはり研究者の発表などにとっても有効なのであるべきとか、Day 0もあるべきとか、オープンフォーラムも重要とか、結局、みんな重要ということになって、カテゴリーとしては、去年と同じようなカテゴリーが全部そのまま残ることになって、ただ全体のセッションの数は多分、去年よりさらに減るのではないかと思います。まだその具体的な数までは出ていないので分かりませんが、少し減ると思います。

【加藤】 大きな部屋2つを入れて、全部で8つの部屋になるようなんです。だから、どうしてもパラレルのセッションが限られてくるなという感じがします。

その後、2日目、プログラムのストラクチャーは現行どおりの構造で、何かやめるとか、そういうことはしないということが決まって、3日目として、次に.....。

【河内】 あと、3日目は、1つが、最後にやったGDCとの関連、どんなことをやっていくべき

か。WSIS+20に向けて、IGFとして、MAGとしてどんなことをやっていくべきかみたいな議論が行われました。StrategyのワーキンググループでVision Documentをまとめたりした関係で、共同進行役のChris Buckridgeというオーストラリア人がいるんですけど、彼がいろんな説明を、今年こんなことをやっていくべきという話をしていました。例えば、Intersessional Workの重要性とそのモデルの見直しとか、先ほどもちょっと言ったサンパウロ・マルチステークホルダー・ガイドラインの管理者としての役割をIGFが担うべきではないかとか、「デジタル協力」という課題をIGF 2025で議論したいとか、そういうことを言った中で1つ出てきたのは、資金調達の問題が重要だから、資金調達の問題は、要するに、十分お金がIGFについていないので、やりたいことができないのではないかという議論です。それは、去年の2024年のVision Documentの中に入れる、入れないという議論が、Strategyのワーキンググループの中でもかなりあったらしいのですけれども、やっぱり資金調達は、例えばIGFが自由にとか、マルチステークホルダーで活動する上で、国連から常設の通常予算みたいなものをあまりもらい過ぎるのもどうなのかとか、では恩恵を受けている大手テック企業にもちょっと出してもらったらいいのではないかと、いろいろ議論は尽きなかったのですけれども、結局、資金調達の話は、結構慎重にいろんな側面を考えてすべきではないかということを行っている人がいました。ただ、資金調達の問題は確かにあるので、そこは考えていくべきと、慎重にみんなで議論すべきという結論になっていました。

【加藤】 最初、ポジションペーパーの中、Strategyのペーパーの中に、資金もきちっと確保して、皆さんもお金を出すと。実は、さっき申し上げたWhatsAppのサイドでは、テック企業、大企業に出させればいいじゃないかというやり取りは結構あったのですけれども、大企業に出させると、やっぱりそれでバイアスがかかるのではないかと、ある国だけが出すというと、国連のレギュラー予算の中に組み込むことができるのかどうかとか、そういう細かいやり取りがいろいろあって、結局これは、安易にMAGがこういう立場がいいという提案をすべきではないということが決まったと。したがって、この話は、いろいろなそういうコンシダレーションを持って、オスロでもう一回議論をしようということになりました。

【河内】 それで、さっきもちょっとありましたけれど、来週の2月14日に、Vint CerfがチェアをしているリーダーシップパネルとMAGの会合をやる予定なので、今、日程調整中ですよと言っていました。

すみません。MAGはそんな感じです。

【加藤】 長い時間を取ってしまいまして申し訳ありません。次のアジェンダに移りたいと思い

ます。もし御質問等あれば、実はオスロの会場の説明とか、いろんなロジスティックも説明があったのですが、短期間に非常によく準備されているなという印象でございました。

ということで、ちょっと時間が押しているのですが、山崎さん、次のアジェンダに移らせていただいて、NRIですかね。

【山崎】 その前に、チャットで山中さんから質問がありまして、データガバナンスはODETの中のワーキンググループで話されるのですかという質問が出ていますけれども、いかがでしょう。

【加藤】 ごめんなさい。これはデジタルガバナンスだったんじゃないかな。

【山中】 デジタルガバナンスか。データガバナンスではなくてですか。

【加藤】 はい。

【山中】 なるほど。ではデータガバナンスの一般の話なんですね。ではデータガバナンスに特化した形では……。

【加藤】 ではないと思います。

【山中】 分かりました。了解しました。ありがとうございます。

【加藤】 ほかはよろしいでしょうか。

それでは元のアジェンダに戻って、NRIがその前にありました。もう内容的にはかなり今回のMAGでカバーしたものがあって、これは山崎さんが……。そうか。これも前に河内さんにまとめていただいたんですね。

【河内】 山崎さんがまとめて。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 そのMAG会合のちょっと前に、1月28日にNRI会合がありまして、60名少々、参加されました。

一番大きかったのは、今年のNRIの活動目標ということです。まずは6月の第20回IGFで、NRIの役割ということで、セッションをどういふものをするかというのが最初に来て、結局、今までと同じ形式でやるということになりました。この3つのCollaborative Sessions、1つのCoordination Session、1つのMain Sessionですね。参加者からは、例えば地域別セッションをやったらどうかとかいうのもありました。去年のリヤドで、WSIS+20を例に挙げていましたけど、同じテーマのセッ

ションが幾つもあったので、そうならないようにする必要があるのではないかという意見も出されました。

重点分野としては、これもMAGと一緒にすけれども、WSIS+20への貢献を強化する。それで、グローバル・デジタル・コンパクト(GDC)の目標への取組を促進。それで、IGFの役割を国連総会の中で強化する。NRIの位置づけを正式に位置づけすることを指すというものでした。

NRIの役割強化ということで、NRIの重要性。それで、IGFの議論に貢献するために、個別の経験を共有するよりも、メインのインターネットガバナンスの課題に焦点を当てるべきという意見が出されました。GDCの主要な目標への貢献を示すことが重要という意見もありました。それで、ちょっとこれは個別ですけれども、アフリカの国の例を挙げてNRIの政策的な影響力を強調した人もいました。

提案されたアクションとしては、NRIへの参加の現状分析の方法論を開発するというのと、NRIの影響評価のフレームワークを作成、成果を可視化。NRIの調整で協力を強化して、グローバルIGFでの発言力を向上するということになりました。

WSIS+20との関連ですけれども、これにおけるNRIの役割を強化することで一致したと。その次は提案ですけれども、何か提言書を作るべきで、IGF以外の場でも発言すべきという提案がございました。それで、その提言書は作成してみるということになりました。

NRIの連携と代表性の向上ということで、文書がいろいろ飛び交っているので、Google Driveとかで文書を一元管理するということになりました。

今後の計画ですけれども、これはMAG会合、さっき共有いただいたものです。

それで、3月。これも、さっきの蛇のくねくねのスケジュールの中にありますけれども、3月にはテーマの確定期限。4月には、第2回のMAGの公開コンサルテーションと、それに引き続いてMAG会合。これでIGFのセッションが最終的に決まる。それで、6月にIGF本番と。

次のステップとしては、セッションテーマ確定、提言書作成、Google Drive、IGFの参加登録などの情報共有ということでした。

次のIGF、NRIの会合は今月末、これから日程調整ということになります。

私からは以上ですが、何か御質問等あればお願いします。

【加藤】 どうも山崎さん、ありがとうございました。もしあれば御質問ですけれども、ちょっと時間が押していますので、大体、会議の内容としては、これで終わりですかね。その他の会合に関してというのは特にございませんでしょうか。

その次のアジェンダで、勉強会に関して。今日はデジタル公共財の話をしていただきますが、そ

れ以外に、今後やっていくことについて、河内さん、何か御相談することはありますでしょうか。

【河内】 次回なんですけど、まだ私の案にすぎなくて、まだ実際にお願ひする場合に、その方とかに御相談していないのですけれども、京都情報大学院大学さんの田中先生といろいろお話をしたときに、「ドット京都」の取組で、結構、地域に根差したいろんな活動をされているというのを、私はこれまであまりよく知らなかったんですけど、ちょっと伺いまして、とても面白い取組だと思っています。そういう取組を通してこそ、インターネットガバナンスとか、そういうことへの理解とかが深まるのではないかと私は思っていて、京都というのはちょっと地域的に特色が高い地域ではありますけれども、日本のほかの地域でもいろんなことが同じようにできるのではないかと思っています。その取組について御紹介いただいたらどうかと思うんですけど、ちょっと今日、立石さんがいらっしゃるので、田中先生に全然聞いていないので分からないんですけど、そういう案で、ちょっと。

【立石】 僕も全然聞いていない。いや、しゃべれと言われれば……。すみません。

ちょっと画面が出ていないんですけど、多分、世界で唯一、京都に住所がないと取れないあれなんです。あと、いわゆる性風俗お断わりなので、実はちゃんと見回りをしていて、変なものが出てくると、コンテンツを変えてねとお願ひしているという。お願ひベースなんですけど、やっていて、多分、かなりユニークな取組はやっていると思います。その分、数が伸びないという別の悩みはあるんですけど、その辺はお話できると思いますけど。

【加藤】 山崎さん、手を挙げていただいています。

【山崎】 ちょっと質問なのですけれども、この勉強会のテーマについては、提案とかを受け付ける感じですか。

【加藤】 もちろんそうです。自薦、他薦をぜひ上げてください。

【山崎】 では、メーリングリストか何かで募るというのも。だから、必ずしも次回でなくても、3回目以降でもありでしょうし、募ってもいいのではないかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。前にも申し上げたとおり、例えばテックコミュニティーからもやるし、もう少し市民社会からもやるし、いろんなグループの方から順にやっていただくイメージがいいのかなと思いますので、ぜひ自薦・他薦をお願ひしたいと思います。

では、立石さんがいらっしゃったのであれですけど、1つ、候補と考えて御相談してよろしいでしょ

うかね。

【立石】 我々のほうは大丈夫だと思います。

【加藤】 皆さん、ほかの方はいかがでしょうか。ショートノーティスで、3月10日と、今、次回の候補がありますけど、例えばその辺で、田中先生なり立石さんに何かやっていただけるとして、日程の調整をした上で、最終的には時間・日程を決めると。それで、並行してその次以降、ぜひやりたいとか推薦というのがあれば、この場でもお願いしますし、もう一度またメールでも、それをお願いするといいかもしれないですね。そういうふうに進めさせていただきたいと思います。

ということで、残りが5分になりましたのですけれども、本チームの今後ということですが、これは、立石さん、前村さんが特に中心的に御検討かと思いますが、何か今、御報告いただくことはございますか。

【立石】 立石ですけれども、まだ今のところ、特に。水面下ではいろいろ動いてはいるようなんですけど、まだ発表できるまでは至っていないようです。すみません。

【加藤】 前村さんからはどうですか。そういうイメージでいいでしょうか。

【前村】 特に追加することはありません。

【加藤】 分かりました。いろんなところでNRIの意見が聞きたいというのが聞こえてくるので、ぜひ日本もこういう形で活発に活動しているというのが見えるとありがたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

ということで、駆け足で大変恐縮でしたが、大体、今日のアジェンダをほぼカバーしたと思いますが、次回、さっき申し上げたように、候補日として3月10日を挙げていただいておりますが、皆さんいかがですか。取りあえず3月10日でよろしいですか。

【山崎】 それとも、前回もそうだったと思うのですけれども、勉強会を開催するのであれば、その勉強会で発表なさる方の都合を聞いてからということになるのではないかと思います。

【加藤】 そうですね。第1候補を3月10日として、その前後、勉強会の講師の方の調整をした上で最終決定するというので、今日は、10日が駄目なら11日、12日あたりで。この辺りで何か、会議があるからとかで不都合があると御存じの方はいらっしゃいますか。

【前村】 3月10日の週はICANNシアトルですね。

【加藤】 そうですか。

【前村】 時間的にはもう、一番駄目な時間帯ですね。

【加藤】 そうですね。シアトルは厳しいですね。

前村さんも、山崎さんもお出になりますか。

【山崎】 いや、私は出ないと思いますけれども、ただ、JPRSの方とか、ひよっとしたら立石さんとかも出席なさるという可能性はあると思うので、やっぱりこの日は避けたほうがいいですね。

今、確認ができていませんので。

【加藤】 だったら、その次の週にしますか。ちょっと空きますけれども。いかがでしょうか、皆さん。3月17日の週にしますか。

先ほどのMAGとか何かのタイミング的には、3月17日というのは、さっきのCall for sessionの3月16日の締切りの翌日ですね。そういう意味では、それでも構わないですかね。逆に言うと、セッションに応募される方は、ぜひもう次回までに応募してくださいという感じになります。それでもよろしいですか、皆さん。それとも、前倒しにして3月3日を目指しますか。いかがでしょうか、皆さん。

立石さん、前村さん、ICANNIに関係されることもあって、いかがですか。

【立石】 そうですね。ちょっと勉強……。すみません。実は、2月、3月が、私はいっぱいいっぱい微妙ですけど、まだ3日のほうが確かに。

【加藤】 17日より3日のほうがいい。

【立石】 そうですね。いや、ただ、3日は夜、別件がもう既に。申し訳ないです。

【加藤】 では、3日の週なら、前村さん、大丈夫ですか。

【前村】 あまりよくなくて、私は6日にはもうシアトルに飛ぶんです。

【加藤】 そういうことですね。なら、3、4、5なら可能性はまだありますか。

【前村】 そんな感じです。

【加藤】 では、3、4、5か、17、18、19あたりで、立石さんのほうで先ほどの内容についてしゃべっていただく方を調整した上で、もうこの日ということを書いていただくということで、いかがでしょうか。

【立石】 何か、ブーメランで戻ってきたような気はしています。

【加藤】 では、そのように決めさせていただきます。

【立石】 すみません。

【加藤】 ありがとうございます。

一応、これで今日の情報交換のセッションはお開きにしたいと思います。ちょうど今、夕方6時になりましたので、それでは、第1回目の勉強会をスタートすることで、皆さん、それでよろしいでしょうか。これだけはどうしても質問したかったとかというのは大丈夫でしょうか。

では、そういうことで。あと、勉強会の進行を、河内さん、お願いいたします。